

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：令和6年度第1回館長・主事合同研修会
- 目的：地区公民館の職員を対象に、地域における学校との連携や協働活動の意義について学び、公民館職員としての資質向上を目的とする。
- 主催者：日田市教育委員会社会教育課
- 開催日時：令和6年6月3日(月) 13時30分～15時30分
- 会場：日田市複合文化施設 1階 多目的ホール  
(ビデオ会議システムによるリモート講義)
- 参加人数：39名
- 受講対象者：地区公民館の館長、公民館主事、社会教育行政関係者
- 研修内容
  - 講義 地域学校協働活動とコーディネーターの役割について  
～コーディネート方法とコーディネーターの役割について
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 橋本 洋光 氏
- 内容
  - ◎平成27年12月中教審答申 その柱：「支援」から「連携・協働」へ
  - ◎子供たちの社会環境の変化(予測困難な時代)と「社会総がかりの対応」
  - ◎連携・協働の目的=私たちのミッションは何か
  - ◎連携・協働の中教審答申の流れ  
「開かれた学校づくり」から「社会に開かれた教育課程」へ
  - ◎人口減少社会・少子高齢化・人生100年時代をどう生きるか
  - ◎コーディネーターの役割
  - ◎<集める>地域ボランティアをどう集めるか
  - ◎<知らせる>地域連携担当教職員のしごと
  - ◎<受けとめる>地域ボランティア・ボランティア活動をどう理解するか
  - ◎<拓く>プログラム開発 各地の事例紹介
  - ◎連携・協働で育つ子供像
  - ◎先生方を支えるのは誰か

## ◎「子供の参画のはしご」

### <主な感想>

- 地域と学校に対して、公民館などが率先して繋がりを作ることの重要性が理解できた。普段からの人間関係作りを大事にしていかなければいけない。
- 地域学校協働活動とコーディネーターの役割について、とても勉強になりました。今年も学校から家庭科の学習支援の要請がありましたので、勉強したことをこれからの取り組みに活かしていきたいと思います。
- 後半、多くの事例をもとに話していただき参考になった。日田市地区公民館の青少年学習事業の課題をズバリ指摘された。気にしていたことであるが、第三者に指摘されあらためて考え直さなければならいと実感した。
- 地域と学校が連携して事業を実施することは必須になってくると思います。
- 公民館主催中学生ボランティア活動を上手く活用して、学校事業に活かす取り組みを考えたいと思います。
- 公民館として、利用者の高齢化、固定化に悩んでいるが地域学校協働活動が機能すれば地域活性の可能性がありました。その一方で地域性や学校の協力、公民館職員の負担など課題も多いと感じました。
- 学校との連携を図り、子どもたちの健全育成のために公民館として出来る事を実施していきたいと思いました。そのためには日頃から学校との関係を築くことが大事だと感じた。さらに地域の方々にも協力していただく場面も多々あるので、地域の方々との連携を図る必要があると思いました。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：令和6年度第1回地域とともにある学校づくり研修会
- 目的：今年度新たに地域とともにある学校づくりに関わっていただく方を対象とし、地域学校協働活動の意義や地域コーディネーターの役割等についての基礎的な知識の習得を目的とする。
- 主催者：津市教育委員会事務局教育総務部生涯学習課
- 開催日時：令和6年6月7日（金）14時00分～16時00分
- 会場：芸濃総合文化センター 市民ホール
- 参加人数：58人
- 受講対象者：新任校長、新たに地域コーディネーターとなられた方  
（その他参加を希望される、学校運営協議会委員、社会教育委員、生涯学習情報バンクに登録されている方）
- 研修内容
  - 講義 コーディネーターの役割や必要性、コーディネートの方法について
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏
  - 内容 ◎地域コーディネーターは、教育（社会教育）に携わる職  
◎そもそも地域学校協働活動とは  
◎地域学校協働活動の必要性  
◎学校・家庭・地域の連携を進める意義  
◎コーディネーターの育成・確保がカギ  
◎コーディネーターの役割  
◎コーディネーターに求められる資質・能力  
◎情報を収集・提供・発信する際の留意点  
◎地域の教育資源の発掘と有効活用  
◎地域情報を活用したコーディネート事例  
◎皆さんへの期待
  - 演習 ワークショップによる研修

<主な感想等>

- 今年から初めて地域コーディネーターと学校運営協議会委員を引き受けた。今回の研修を受けて、地域の方々から情報をもらい民生委員の仲間と少しでも貢献できるよう頑張る。(地域コーディネーター)
- 地域の高齢者への期待に偏っており、保護者・PTA世代の活動期待が必要だと思う。(学校運営協議会)
- 自分がコーディネーターとしていかに行動していくべきか再確認できた。(地域コーディネーター)
- 地域コーディネーターの役割を学ばせていただいた。自分ができることとしてまずは地域コーディネーターとしっかりつながることが大切だと思った。(校長)
- 地域と学校とで顔を見ながらやり取りすることの大切さ、まずは動いてみることの必要性を再確認した。(校長)

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：令和6年度第2回学校運営協議会・地域学校協働活動に係る事務連絡会議

■目的：地域学校協働活動推進員のコーディネート力（特に人材育成の能力）を強化することで、地域学校協働活動の推進と取組の継続を図る

■主催者：青森市教育委員会 文化学習活動推進課

■開催日時：令和6年7月8日（月）13時00分～16時00分

■会場：青森市教育研修センター

■参加人数：93名

■受講対象者：学校運営協議会委員、CSディレクター、地域学校協働活動推進員、教職員、行政職員

■研修内容

講義 地域学校協働活動推進員のコーディネートの方法とボランティアの人材育成について～つながる、つなぐ、わかちあう～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 興梠 寛 氏

内容 ◎学校と地域社会との教育課題の共有と協働をすすめる背景  
◎コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進  
◎地域学校協働活動のコーディネーション  
◎人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ  
◎よりよいコーディネーションのための6つの方法  
◎地域学校協働活動の実践事例  
◎ボランティア学習の進め  
◎ボランティア活動の4つの理念  
◎ボランティアに秘める3つの学びの要素

演習 ワークショップによる研修

### <主な感想等>

○興梠先生のお話を拝聴することができて大変良かったです。また、ワークショップでは、それぞれの立場からの課題や考えについて、こちらも大変勉強になりました。

○家庭で子どもを育てるのは当たり前、学校で子どもを育てるのも当たり前、でも、地域が子どもを育てることは当たり前という認識はまだまだ浸透していません。それは、地域の中に、その場や役割が明確になっていないからだと思います。でも、確実に変わってきていると思います。身の回りから変えていきたいと思いました。

○とても勉強になりました。これからも子ども達や学校のためにお手伝いできたらと思います。ありがとうございました。

○具体的な事例をたくさん聞けてよかったです。

○地域の人達と繋ぐ役割、講師の方からいろいろお話がありましたが、なかなか青森ではまだまだ難しいところがあると思いました。一つ一つ、これからの課題だと思いました。

○ボランティアの在り方について深く考えさせられました。グループ討議では、最後に自分たち大人が主体的に取り組む姿を子どもに見せていかなければ、当然将来今の子どもたちが主体的に動くことはないだろうという言葉が出ました。そのために学校や地域が取り組んで行かなければならないことを改めて考え実践していきたいと思います。また、SDGsの目標はボランティアの目標であることも初めて知りました。貴重なお話を伺えてとても参考になりました。

○講師の興梠先生のお話をもっとじっくり聞いてみたいと思いました。公立学校ではコミュニティ・サービスマーケティングの概念が浸透していないようですので、早く浸透していけばいいなと思います。グループでの演習は自由なやりとりができてとてもよかったです。推進員さんへの感謝の気持ちを新たにしました。ありがとうございました。

○他県の実践事例などは参考になりました。校門での挨拶ボランティアなど、ハードルを低く、無理なく子どもたちのためにできることを探して実践していければと思いました。ありがとうございました。

○今回の興梠先生の講話は具体的な事例を元にさらに数多くの事例に触れ、とても刺激になりました。「子ども達へのボランティア教育」という視点を得て、新たなアプローチの仕方を模索しようと思いました。

○自己肯定感の低さが以前から問題視されていましたが、今日の講義の中でボランティア活動を通して、「あなたは必要な人である」という体験が大事であるということが必要であるということを感じました。学校の様々な活動の中で、自己肯定感や有用感が高まるような工夫をしていきたいと思いました。今やっている活動を、今一度見直し、夏休み明けの活動につなげていきたいと思いました。

○講義がとてもよいお話だったので、もっと時間に余裕をもって聞きたいと思いました。

○今回の講話は、青森市としては「目指すべき将来の姿」と感じました。青森市で講話と同様なシステムが構築されれば、ボランティアはスムーズに進むと思います。今は地域も学校もそこまで到達しているようには感じません。どの地域も何から手をつけるといいのか迷っている状態のように感じます。まだまだやらなくてはならないことが多いと感じました。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：第1回高松市地域学校協働活動研修会
- 目的：教職員や地域住民等が地域学校協働活動を推進する意義や、コーディネーターの役割等について、共に学び、考えることにより、共通理解を深めることを目的とする。
- 主催者：高松市教育委員会生涯学習課
- 開催日時：令和6年7月9日（火）13時30分～16時25分
- 会場：高松市役所13F 大会議室
- 参加人数：97名（+主催者側7名）
- 受講対象者：高松市地域学校協働活動推進員、学校関係者、  
学校運営協議会委員、コーディネーター候補者、地域住民 等
- 研修内容
  - 講義 地域学校協働活動の意義とコーディネーターの役割等について  
～地域の未来をつくるのは子どもたち、子どもたちを地域の力で育てよう！～
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 大坪 直子 氏
  - 内容 ◎地域学校協働活動について  
◎学校支援活動から地域学校協働活動へ  
◎連携・協働で育つ子どもたち  
◎地域学校協働活動の実践として  
◎推進員（コーディネーター）の活動・役割  
◎ボランティア人材（人財）の活動  
◎ボランティアをどう集めるか  
◎ボランティアにはどのように協力してもらうか  
◎子どもも大人も学び合い育ち合う  
協働活動でボランティアの楽しさ・喜び  
◎活動事例
  - 演習 ワークショップによる研修
    - ◎自己紹介（育てたい子どもたち、自身の学校の活動プチ自慢）
    - ◎「育てたい子どもたち」

◎「高松市のお宝」を子どもたちに伝えたい

学校のカリキュラムに組み込むために、連携する人材等

<主な感想等>

- 自分の地域にはコーディネーターがないので、これを機にぜひコーディネーターをつくり、学校運営協議会としてさらに盛り上げ成果を出せるようにしていきたい。
- 地域学校協働活動は非常に理解しづらい概念であるため、各地の具体的事例を聞いたのがありがたかった。成功例を数多く紹介していただくことで、活動のヒントがつかめるように思う。
- いろいろな地域のいろいろな立場の方とグループワークできたことが大変勉強になった。
- 具体例について詳しく説明していただけると、どう一歩踏み出したらよいか参考になる。
- 対話の場を地域でも増やして、学校と地域でつながりながら推進していきたい。
- 学校・地域・保護者のチームだったので様々な意見が聞けてとても楽しかったし、気づきも多くあった。
- グループワークにおいては、高松市の良さと各地域の良さを知り、共通項、共通課題、共通のよさがありシビックプライドにつながると感じた。
- 具体的な予算や補助金についても学びたい。
- 「育てたい子どもたち」「高松市のお宝」をワークショップで話し合うことで地域の大切さを考え見つめ直すことができた。
- 協働活動というよりはコーディネーターの方の考え方を知る機会となった。今後は各校の取組や人の動きについて交流したい。
- 説明時間がもう少し長くてもよかった。
- コーディネーターとしての講師の経験談を中心に聞かせて欲しかった。
- 今日学んだことを今後の活動に活かしていきたい。
- 他県の事例、またはワークショップで他地域の取組の話を聞いて良かった。自分の地域に戻って何ができるか改めて考えていきたい。

- コーディネーターはどのような働きをするのか具体的に教えて欲しい。
- 学校・地域・保護者と子どもの育成について熟議することが地域学校協働活動を推進するにあたって非常に大事だとわかった。
- 地域学校協働活動を進めているが、自分たちが行っていることが間違いではないということが分かった。今後、組織を整理して進めていく必要があると思う。
- グループワークをすることで自校の自慢を見つめ直すことができた。いろいろな立場の人の話を聞くことで考えが深まった。立場のちがう人との対話は、幸せな気持ちになり元気が出た。
- 具体的な事案を元にもっとゆっくり話が聞きたかった。意見の取り上げ方、コーディネートの方法、具体的な実現までのプロセスなど教えていただきたい。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：学校運営協議会及び地域学校協働活動推進員の役割について
- 目的：学校運営協議会委員及び地域学校協働活動推進員の理解力向上及び人材育成の場を図る。
- 主催者：高千穂町教育委員会
- 開催日時：令和6年7月30日(火) 14時00分～16時00分
- 会場：高千穂町役場  
(ビデオ会議システムによるリモート講義)
- 参加人数：35名
- 受講対象者：学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員
- 研修内容
  - 講義 学校運営協議会と地域学校協働活動推進員の役割について
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 山本 裕一 氏
  - 内容 ◎学校における教育目標が社会と共有されなければ、連携・協働は生まれ  
ない。  
◎何のために目標を共有するのか。  
◎地域の当事者意識は育っているのか。  
◎「楽しいことを考えよう」  
◎私たちは、“学習する組織”  
(子供の学びを考える大人の集団)であるということ。  
◎地域学校協働活動の必要性

<主な感想>

- CSの本丸の話だったので、CAとしてテーマが大きすぎる気がした。(研修を終えて、この先どう進めればよいか悩んだ)
- 学校と地域が一体となって目標などについて、協議することの大切さがわかった。その時間をどうやって生み出すのか、地域に当事者意識をしっかりと持っていただくには、学校側がどう働きかけていけばよいかこれがこれからの課題と感じた。

- 学校運営に対する地域の役割について、まだ曖昧な部分を感じている。学校教育をフォローする者としてもう少し目に見える形が出てこないかなと思う。私的には、学校の運営計画は基本学校が作成するものと思っている。地域との連携をイメージしたい。
- 具体的かつ的を射た講演だった。できれば、全職員、全保護者、全ての地域の方に聞いていただきたい内容だった。形にこだわる学校、働き方改革の本来の意味を考えなくてはならない。当事者になりきれない地域、学校への敬意を払ってのことだとも考えられるが、本音を語れるCSにしていきたい。
- 折角、CSとCAがそろったので、学校の課題について話し合う場面があっても良かった。
- CS元年ということで、今までしてきたことをCSの視点で再確認する研修だった。いろいろな考え方が提示され、概念を理解することができた。一方で、今回の参加者に教職員の方々が多かったので、少しイメージしにくい面があったのかなと感じた。例えば事例紹介があったが、これを使って、参加者で気になる点や何が課題か、何ができるか話し合ってもよいと思った。これこそが熟議につながると思う。
- 学校としての実情や課題を直接山本先生にお話しできたことや御質問させていただく機会をもうけていただき、校長としてその解決の糸口をちょうだいできたことは大変ありがたかった。特に次年度の学校経営を考える上で、町内すべての小学校から本校に児童が入学してくることから各地区の地域性を生かしつつ、高千穂中のこれまでの伝統を継承していくことの重要性を再認識することができた。更にその地域性も学校だけで考えるのではなく、学校後援会やPTA等の各地区に長年在住している方々の知恵や考えを頂戴しながら本校の生徒にとってよりよいものとなるように考えていかなければならないと感じた。今回の研修で学んだことや得たことを参考にして今後の学校経営・運営に生かしていきたい。  
本日は、貴重な研修をありがとうございました。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：地域学校協働活動オンライン研修会

■目的：「地域との連携・協働」の更なる推進を目指し事業理解を深めるとともに、大川村と近似した地域での実践事例等を共有することで、地域ぐるみで子どもの育ちを支援する体制づくりを進めるなど、各地域・学校での今後の活動に資する。

■主催者：大川村教育委員会

■開催日時：令和6年8月21日(水) 18時30分～20時00分

■会場：大川村立大川小中学校小体育館

■参加人数：18名

■受講対象者：ボランティア活動に関心のある村民の方、  
学校運営協議会委員、小中学校教職員、PTA関係者等

■研修内容

講義 「地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの  
一体的な推進に向けて」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 興梠 寛 氏

内容 子どもを育む「縁」を結ぶ～つながる、つなぐ、わかちあう～  
◎コーディネーターは相互理解と信頼の架け橋  
◎ボランティアの教育力は“交流”から生まれる  
◎多彩で選択可能なメニューを開拓し提案する  
◎コミュニティをキャンパスにして創造力を育む  
◎地域と学校を結ぶ協働活動の推進事例

<主な感想等>

- ボランティアのメニューづくりも大事だとは思うが、まずは学校・地域が交流する場や機会をもつことが大事なのではと思った。
- ボランティアとしての精神を地域住民に根付かせることが最重要。それが難しいのだが。

- ボランティア活動に参加する人材育成をする視点は新しいもので参考になった。支援してもらい、支援する、相互に参加しやすいプログラムやシステム、またその情報が多くの人に行き渡る工夫も必要だと思った。
- 大川は特別な事情のある地域。現在のボランティア数は60名近くいるが、現状として活動への参加は限られており、実質登録だけという者もある。今回紹介いただいた益田市や東山田地区の話は以前聞いたことがあるが、人口・地理的なものも大川村とは大きく離れていると思う。コーディネーターの重要性についても、現在の方も多忙でいくつもの役をもっており大変。ことな館がサロンになり、村民の方が多く集まる場となれば、より地域の交流を深めることができると思う。
- 各市町村により特色や環境が違う中で、大川村としてできる取組を考えていきたい。
- オンラインではやはり伝わりきらないことが多いと感じた。
- ボランティアメニューの開発を通じて、子どもも大人も活躍でき、成長できる村づくりが可能であると感じた。貴重な時間を頂き、ありがとうございました。
- 多くの実践が紹介され、参考になった。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における学校との  
連携・協働活動のコーディネーター養成研修

■目的：学校教育と社会教育の関係者が、コミュニティ・スクールや子ども  
に関わる各種団体の活動事例を通して、学校と地域の連携・協働の  
進め方について考える。

■主催者：長崎県教育委員会

■開催日時：令和6年9月13日(金)13時30分～16時45分

■会場：長崎県教育センター(別館4階 講堂)

■参加人数：55名

■受講対象者：教職員、社会教育関係者、地域学校協働活動関係者、家庭教育  
関係者、地域子ども教室等関係者 福祉・まちづくり関係者等

■研修内容

講義 「地域学校協働活動を進めるために」  
子どもを育む「縁」を結ぶ～つながる、つなぐ、わかちあう～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 興梠 寛 氏

内容 ◎コーディネーターの6つの役割  
◎よりよいコーディネーションのための6つの方法  
◎志しは高く、ボランティアのハードルはより低く！  
◎地域と学校を結ぶ協働活動の推進事例  
◎学校にボランティアルームを開設しよう  
◎コーディネーター研修でスキルアップ  
◎パートナーシップの時代をひらく無限に広がる公民館の可能性  
◎ボランティアリズムの2つの選択肢  
◎ボランティアラーニングについて  
～私が変わる、社会は変わる

<主な感想等>

○「ハードルは低く、志は高く」がぐっときた。

○スクールバスから降りてくる子どもへ挨拶するボランティア、そんなボラ  
ンティアもありなんだと勇気をもらった。

- 「ボランティアとは」今までとは全く違うことに気が付いた。
- 地域に出ていく、入っていくことが大切だと思った。
- もっと聴きたかった。時間が足りない。
- 子どもたちが上からの押し付けではなく、自分たちの力で出来上がったプログラムを発表、実践。子どもたちは、また、ふるさとに帰ってくることだろう。
- グループワークの後、講師へ質問ができるのはよかった。
- いろいろな角度でコーディネーターの役割を理解することができた。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：令和6年度 社会教育委員研修  
地域における学校との協働活動のコーディネーターの役割と効果  
についての研修会
- 目的：今後、地域学校協働本部を設置することを目的とし、地域学校協働  
活動を実施していくための準備として、認定こども園・義務教育学  
校の地域学校協働活動の中心となる地域学校協働活動推進員（コー  
ディネーター）の役割と効果について知る。また、活動の企画運営  
者（教職員・社会教育関係者等）の資質向上・相互理解を図り、活  
動の素地を作ることを目的とする。
- 主催者：大熊町教育委員会
- 開催日時：令和6年9月18日（水）13時15分～16時00分
- 会場：大熊町役場 1階 多目的ホール
- 参加人数：27名
- 受講対象者：社会教育委員他教育委員会内各委員、教職員、行政職員、民間  
関係団体・企業、生涯学習・社会教育関係団体等
- 研修内容
  - 講義 地域における学校との協働活動のコーディネーターの役割と効果に  
ついて
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 橋本 洋光 氏
  - 内容
    - ◎なぜ地域学校協働活動か
    - ◎連携・協働の目的=私たちのミッションは何か
    - ◎学校運営協議会の大切な点、地域学校協働活動の課題と  
課題解決策
    - ◎コーディネーターの役割、地域連携担当教職員のしごと
    - ◎地域教育資源の活用（人材：地域ボランティア）、  
地域ボランティアをどう集めるか
    - ◎地域資源を活用した学習プログラム開発、社会に開かれた  
教育課程=協働的な学び
    - ◎学校を核とした地域づくり
    - ◎連携・協働で育つ子供像
    - ◎生涯学習の在り方

演習 ワークショップによる研修

「地域の教育資源を生かした『社会に開かれた教育課程』をつくってみよう」

<主な感想>

【講義についての感想】

- まさに、ゆめの森が目指していることが、これからの社会に必要なだと改めて思いました。
- コーディネーターの役割がよく理解できました。
- 昨年から参加させて頂いているゆめの森での取組が、間違っていなかったんだと思えてありがたいです。
- 地域連携について基本的な所を知ることができた。大熊町では、どう活用していけばよいかと考えた。
- 改めてボランティア論について認識できたと共に、大熊からの思考もでき大変学びになりました。
- ボランティア活動が自分を育てるには重要なんだということを知りました。
- 地域協働の制度上の仕組みやあり方を教えていただき、勉強になりました。
- 難しかったけど、本気で考えなくてはならない問題だと思いました。
- 0才～15才までのシームレスな教育と共に、学校と地域のシームレス化に向けて、開かれた園・学校づくりに取り組んでいきたいと思えます。
- 地域と学校の連携について改めて知れました。
- これからの学校と地域の連携が大事であることの重要性を講義していただいたので、今後少しでも生かせるよう参加していきたいと思いました。

【ワークショップについての感想】

- 大熊を思い出しながらワークショップし、とても楽しい時間になりました。
- 様々な立場・年齢の人が一緒に考え、話し合っってプログラムを考えることができた。

- もっとたくさんの人財を知らないといけないな、コーディネーターとしてもっと成長したいなと思いました。
- 実現できそうなこと、そうでないけど長い時間をかけてできそうなことなど、たくさんアイデアがあり良かった。
- 普段お会いできない町内の方々とお知り合いになれば、大熊自体をより知ることができた。
- ふるさとを再確認することができて良かった。
- 地域には教材になり得る素材がたくさんあることが分かり、これを生かさない手はないと思いました。
- 初めて会った方と意気投合し、楽しく語ることができました。
- 皆で考えたプログラムをぜひ実現したいです。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

- 研修名：第3回地域学校協働活動研修会
- 目的：教育支援活動に関わるスタッフやボランティア、行政職員に対し、学校・家庭・地域の連携・協働を推進するために必要な資質や能力を養い、人材の確保を目指す。
- 主催者：新潟県教育委員会
- 開催日時：令和6年10月30日（水）13時20分～16時20分
- 会場：新潟県立生涯学習推進センター大会議室  
(ビデオ会議システムによるリモート講義)
- 参加人数：52名（オンライン会場 8名 オンライン 44名）
- 受講対象者：地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、学校運営協議会委員、これから地域コーディネーターとして活動したい方、興味・関心のある方、行政職員
- 研修内容
  - 講義 これからの地域と学校との連携・協働の在り方
  - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏
  - 内容
    - ◎地域学校協働活動推進員（コーディネーター）は、教育（社会教育）に携わる職
    - ◎地域と学校、家庭の連携・協働の意義と進める目的
    - ◎コーディネーターの育成・確保がカギ
    - ◎コーディネーターの役割と、求められる資質・能力
    - ◎情報を収集・提供・発信する際の留意点
    - ◎地域の教育資源の発掘と有効活用
    - ◎地域学校協働活動の内容
    - ◎皆さんへの期待

演習 ワークショップによる研修  
「地域学校協働活動の企画・立案」

<主な感想>

- 具体的な例や方法、同じ立場の方から現在のお話を聞くなど、情報をたくさん共有でき、大変実りのある研修だった。
- 他市の具体的な事例をいくつか提示していただき、とても参考になりました。
- 今回のグループワークで学校側の意見を聞いて、とても参考になった。
- 地域学校協働活動の目的は人づくりだと言うことに感銘しました。
- 主体的に活動し楽しい経験を積んだ保護者たちは、やがて地域のために何かやろうと思うようになるのかもしれない。また、日常で教員の困っていることを地域に伝えたり、助けもらったりしてもよいのではないかと感じました。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：令和6年度東海市地域学校協働活動コーディネーター養成研修会

■目的：令和6年度から市内小中学校各1校で実証実験を開始している「地域学校協働活動」について、地域学校協働活動推進員及び活動協力者の資質向上を図り、円滑な本格導入につなげる。

■主催者：東海市教育委員会

■開催日時：令和6年12月14日（土）14時00分～15時30分

■会場：東海市立加木屋市民館 研修室

■参加人数：17名

■受講対象者：地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員、教職員、市職員

■研修内容

講義 地域学校協働活動と地域コーディネーター（推進員）の役割について

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 山本 裕一 氏

内容 ◎学校における教育目標が社会と共有されなければ、連携・協働は生まれません。

◎コミュニティ・スクールの意義

保護者や地域住民等が当事者意識を持って参画することで、様々な取組が活性化。コミュニティ・スクールは、不登校問題にも効果を発揮している。

◎私たちは、“学習する組織”

（子供の学びを考える大人の集団）であるということ。

◎終わりに；コーディネーターの役割を考えよう

<主な感想>

○地域の人たちにこのような活動を広める方法（知っている人は知っているが、知らない人は知るすべがない）

- 今まで理解できていなかった部分がわかりやすく教えていただけたと思います。「議論」を大切に先生方とよりよい活動につなげていけたらと思います。ありがとうございました。
- 現状維持を満足せず、更に考えるべくきっかけをいただきました。
- やりながら教えていきたいと思いました。
- 本日の講義の中では、学校、地域の当事者意識を育てる事がまずは重要である事を認識した。活動を進めていく上でプロセスが大事である事、その為にも現状の把握が必要である事を改めて感じた。
- 地域の方が当事者意識を持って取り組むということは、なかなか行政から言うことは難しいので、第三者の立場の方から言っていただく機会があるのは良いと感じた。また、やはり統括コーディネーターのポジションの方がいずれ必要ではと思った。分かりやすく説明していただいたため出席された方も頷きながら聞いていて理解が進んだと思う。

令和6年度体験活動・ボランティア活動及び地域における  
学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修  
(報告書)

■研修名：子ども指導者研修会

■目的：指導者として活動している人や青少年の健全育成に関心を持つ人を対象に、活動する上で役立つ情報や体験活動等について学び・交流することにより、知識理解を広げ、関係者としての資質向上を図る。

■主催者：下関市教育委員会

■開催日時：令和7年1月28日(火) 9時20分～12時00分

■会場：下関市立勝山公民館

■参加人数：30人

■受講対象者：放課後子供教室関係者、地域学校協働本部関係者、放課後児童クラブ支援員、ボーイスカウト及びガールスカウト関係者、子ども会関係者等

■研修内容

講義 子ども指導者の資質向上と楽しくつながる活動について  
～地域の未来をつくるのは子どもたち、  
子どもたちを地域の力で育てよう！～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター  
コーディネーター 大坪 直子 氏

内容 ◎地域で子どもたちが育つことでつながりのある地域をつくる  
◎学校支援活動から地域学校協働活動へ  
◎地域が子どもたちのために実践する活動  
◎地域の教育資源【地域の宝】を活用した学習プログラム  
・コーディネートのポイント  
◎地域の課題を地域で考える 地域の中に学校はある…  
◎地域で子どもを育てる活動  
◎人材・ボランティアをどう集めるか  
◎社会教育機関やコミュニティセンター等の連携の方法  
◎子どもも大人も学び合い育ち合う  
協働活動でボランティアの楽しさ・喜び  
◎活動事例  
◎地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えることで、地域が  
つながり、新しい地域をつくっていく

## 演習 ワークショップによる研修

### <主な感想等>

- 他の色々な活動を行っているグループの意見や考えを聞いて参考になった。
- 地域学校協働活動をどのように進めていくか考え方がよく理解できた。
- 講師の先生のお話も興味深く、今後の活動についてよく考える機会となった。
- 放課後子ども教室の活動の活動プログラムの選択肢についてヒントをたくさんいただいた。
- 地域で連携することの大切さ、放課後子供教室が地域をつなげる事ができるものだとわかりました。
- やりたいプログラムをするには、地域内のどのような団体に協力してもらえばよいか考えるのがよかった。